

丁
協
調
會
号

宣 言

過日報新聞社内於ける紛議に就ては我が正進會たるもの敢て勢力を望むものにはあらざれども唯だ我等は絶くまで社會的正義の命ずる所に従つて我等個人間的生存の權利を欲求する一階梯として二部八時闘争最低賃金を主張し彼等の頑冥固陋なる非公善的態度に向つて邁進せんとするものである

然るに各新聞社側には報知社に於ける事件を目して恰も正進會の全意志なるが如くに強辯しつゝある

事は今に至つて初めて日新聞其他二三の新聞が報知社に於ける事件をして徒らに法律を云々して虚飾誇大

に報道し尙ほ其の謔念の上に立脚して周章狼狽の結果

高壓的對策を講ぜんとするに至れる如きは我等の其の

意を得るに苦しむと共に其の心事の愚を晒はざるを得

ない所である我等の主張の正當なる事は本會々員にあ

らざる所の日新聞社從業員諸君に於て同一の要求を

提出し其の拒絶に會ふや直ちに敢然として罷業的態度

に出でたことに依つても明らに知り得る這に

獨り本會員の主張のみならず活版工否な全労働者の境

遇が欲求するものであることを事實の上に裏書して徐

りあるものである

今や新聞社側は所謂新聞聯盟協會なるもの、力に依つて我等を脅威すべく畫策唯だ努めつゝあるが我等は我

等の主張の正當を信ずる限り強硬に我等の主張を固持

して止まざるものである

已に諸君の知らるゝ通り我等の勝利は萬朝報社に於

て得られた吾等は正義の主張が最後の勝利を得べき當

熟を信するものであるが故に進んで新聞社側の迷妄謬

念を切破すべく層倍の努力を必要とするものである故

に於て會員諸君は勿論會員外の同志諸君は吾等の運動

を活潑ならしむべく更に奮起せられんことを切望する

ものである

大正九年十月十一日

新 聞 工 組 合 正 進 會

宣 言

去年の夏、東京全市の新聞紙をして五日間發行を停止するの餘儀なきに到らしめた、我が新聞工組合正進會の前身正進會の活動に就いては、諸君は猶其の記憶に鮮かな事であらう。

吾々は惨敗した。一週日に近い休刊と云ふ未曾有の痛快事を僅かの記念として。吾々は一時降伏した。吾々の首要要求である八時間二部制の『近き將來』の公約を、僅かの條件として。

しかし、素より吾々は、彼等資本家の謂はゆる公約を重んずるものではない。吾々の頼むところはたい吾々自身の力だ。爾來吾々は、一たび瓦解した草進會を更に正進會の名の下に復活せしめ、全市新聞工の約半

數以上を糾合して、専念吾々の團結力の増進に努めた。

惨敗一週年が來た。彼等資本家は、其の『時機を見ての近き將來』と云ふ公約に就いては、果して殆んど全く忘れて了つてゐるやうだ。八月一日、吾々は惨敗一週紀念會を開いた。そして其の席上滿場一致の下に、一般労働者に訴へて吾々の再舉を告げると共に其の同情と後援とを乞ふの宣言書を發し、同時に又、資本家等に迫つて公約を實行するの建白書を送つた。

資本家等は何等の回答をも與へない。彼等は全く吾々を無視したのだ。

九月二十日、報知新聞社の同志は單獨に、五日間の回答期限を附して、八時間二部制の要求を提出した。そして其の回答當日、新聞社は回答に先だつて其の手先きの某職工をして同志に喧嘩を賣らしめ、同志もそれに應じて、遂に社内活字臺全部をひつくり返すの活劇を演じた。新聞社は周章狼狽、直ちに警官を呼んで同志九名を拘引せしめ、酒工場の嚴重な警戒に至らしめた。斯くして報知社は自然の罷工となつた。

新聞社側は急速新聞聯盟協會の臨時協議會を開いた。そして、前年の例によつて、極力我が正進會を撲滅する事に議決した。そして猶協會は、新聞工總同盟罷工の際には、正進會員を一人も含まない東京日々新聞社によつて、各社の新聞紙を印刷すると云ふ内相談までもした。

これを聞いた日々社の職工等は、労働者相互連帯の感情から、十月八日、八時間二部制を實施するの即時

回答を求め、新聞社側の斷乎たる拒絶に遭ふて、翌日文選工全部退場した。

協
調
會
号

協
調
會